

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470200900		
法人名	株式会社 ケア・リンク		
事業所名	はびね別府(グループホーム2階)		
所在地	大分県別府市天満町 2-17		
自己評価作成日	平成24年1月7日	評価結果市町村受理日	平成24年3月29日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大洋町2丁目1番41号
訪問調査日	平成24年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の中でご利用者様の残存機能が少しでも維持できるようにその日の体調を観察しながら出来る事はして頂き、出来ない部分のみ声掛け・見守りや介助を行い、認知症の進行や体力低下を防ぐ努力をしている。2階フロアは重度認知症の方が多く身体機能も重度の方が居られ、言語による思いや不安等の訴えが出来ない方が多いため、普段より様子観察を行い、異常や不安を早期に発見できるようにしている。また、介護者からの言語発信を理解する事が難しい為、非言語的コミュニケーションも大切にして笑顔や優しい声掛けやスキンシップを行っている。認知症の学習会は毎月内部研修を行っており、外部研修にも多く参加させていただき、自己研鑽に努めている。ご家族様とは面会時や電話で情報交換を行っており、常にご意見を頂ける態勢を心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・月1回、地震や昼夜の火災などを想定し、利用者と共に避難訓練を行っている。職員は利用者の状態に応じた避難方法を身につけており、いざという時のため、利用者のリハビリを兼ねて階段下りを日課にしている。  
 ・職員の資格取得や研鑽に力を入れており、外部の研修参加や資格取得手当などの支援を行っている。職員の意識調査を行い、日々のケアを振り返りながらスキルアップに努めている。  
 ・ふるさと訪問を兼ねて、利用者と家族、職員が一緒に一泊旅行を実施している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	1/9	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	はびねの理念を念頭に置き、日々の介護を実践するよう努めている。年1回行われている会社の理念に基づいた研究発表にも皆で取り組み、優秀賞を頂いている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を、OJTや申し送りで全職員に伝え、共有している。職員は、日々のケアの中で理念に沿ったケアの実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天満町の行事に参加し、会場として施設を開放したり、餅つきの道具を借りたり、回覧板で『はびね新聞』を回覧して貰っている。また、地域運営推進会議で施設の現状を報告し、協力して頂いている。	事業所が発行する新聞を地域に回覧しており、介護相談を受けたり、地域の会合で認知症の話伝えていく。盆踊りなど、町の行事への参加や地域のボランティアの訪問など、日常的に交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の介護相談を受けたり、介護保険制度の利用方法を説明したりしている。また、中学校や看護学校や介護の実習生・製薬会社の実習生を受け入れ認知症介護について指導している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域運営推進会議にて運営状況や取り組みを報告し、助言を頂いてサービス向上に活かしている。また、地域の方の協力が必要な場合は自治会長・民生委員が協力してくださり、大変助かっている。	年6回開催される運営推進会議では、参加者より避難訓練などについて、意見をもらっている。出された意見は職員で話し合い、サービスに反映させている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設運営において困った事など、市役所に電話や直接出向いて相談をしている。また、別府市グループホーム連絡協議会より依頼して、毎年講演会の講師をお願いしている。	市担当者には、電話や窓口に出向いて相談やアドバイスをもらっている。別府市グループホーム連絡協議会を通して、連携をとれるよう努めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0委員会で管理し全体会議で全職員に報告し、学習会も行い拘束しない介護を実践している。出入口に自動ロックが設置されているが危険防止のためとの評価を利用者・家族・地域の方に頂いている。	身体拘束ゼロに向けての研修会を毎年1回行っている。全体会議で、身体拘束ゼロ委員会の報告を基に、検討を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心に、外部研修や施設内研修で学習し、気付かぬ内に不適切な行為をしていないよう、互いに意識し合っている。9月には「不適切な行為」について意識調査を実施し、全体会議で話し合った。		

事業者名: グループホームはびね別府 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について閲覧できる資料を設置しており、身元引受人様にも説明している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は読み合わせを行いながら、都度質問等があれば伺い、十分理解して契約していただくようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話で情報交換を密に行っている。また、年2回の家族会や年1回のアンケート調査でご意見を頂き、速やかに対応を行っており、アンケート結果については集計・分析を行って、ご家族に開示している。	家族会や、アンケートを実施している。面会時や電話などで意見をもらい、出された意見は職員で話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は申し送りに参加し、直接スタッフと意見交換を行いタイムリーに対応している。ケースカンファレンスや各種会議でも意見交換を行い、職員全員の意見が必要な場合はアンケートで意見収集を行っている。	申し送り、会議等で、意見を聞く機会を設けている。業務改善や外部研修の参加についてなど、出された意見を職員で話し合い、運営に反映させている。職員アンケートも実施している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を実際に確認し、リーダー陣と話し合い情報収集を行い、定期的に人事評価を行っている。職員が向上心を持って働けるよう意見交換を行う事が大切と考えている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を毎月行い、外部研修にも種々参加して、働きながら自己研鑽できるよう努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市グループホーム連絡協議会で研修会や交流会で情報交換を行っている。また、リーダー研修では他施設と交換研修を行い、意見を交換し合った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず訪問調査に伺い、必要としている介護や不安の内容を事前に把握しておき、入居後はその情報を土台にして更に観察して、利用者様が安心して過ごせるよう職員が連携でして介護するよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の訪問調査時に十分意見交換を行う所から始まり、面会時の状況報告や電話で情報交換、月1回の定期報告で写真入りの「コメント」で生活の様子を報告しており、ご家族が「安心できる」と好評である。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様を中心にご家族・主治医・ケアマネ・MSW等と連携を持って取り組んでいる。必要な場合は施設を紹介したり、可能な限り支援するよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援に沿ったケアを心掛けており、家事などで出来る事は一緒に行い、「ありがとう」の感謝の言葉を言い合える関係である。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と職員は互いに情報を送受信しながら、入居者様が健康に安心して、楽しく生活できるよう協働している。家族会等の参加者も多く、大変協力的である。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚やご友人の面会のご家族からの制限が無い限り自由に面会して頂いている。届き物があれば、お礼の電話を掛けて話して頂き、関係が保てるように努めている。元生徒さんが訪ねて来られたりする。	以前働いていた場所に出かけたり、故郷への里帰り旅行を毎年実施している。教え子が訪ねてくるなど、馴染みの人と場所の関係が途切れないよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースにて、スタッフが間に入り、コミュニケーションを図ったり、レクを行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も次の施設に面会に伺い、関係を続けている。残された家族が高齢の場合は時折連絡を入れ、話を聞いたりしている。		
<b>、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知が進み、意思の疎通が困難な場合もあるがご本人の表情や態度から意思を読み取るよう努力している。	「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」を取り入れ、思いや意向の把握に努めている。日々のケアの中や、家族との交流の中で知り得た情報を職員間で共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問調査やご本人やご家族からの情報、または面会者との会話の中から情報を得て、スタッフ間で共有し、レクや生活に反映している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル・食事量・排泄状況など記録に残し、健康面や精神面においても些細な変化も見逃さないように注意深く観察している。また、状態を詳しく記録に残している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族の要望を伺い、カンファレンスで最善の介護を提供できるようケアプランを作成している。また、定期的にモニタリングを行い、ケアプランに反映させている。	毎月1回、職員会議でモニタリングを行っている。家族や関係者の意見を反映しながら現状に即した介護計画となっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録に残すと共に、口頭および申し送り簿にて確実に申し送り、素早く対応出来るようにしている。また、その内容はカンファレンスでも活かされている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスの利用者様と交流できる機会を設けたり、故郷への里帰り旅行を行ったりしている。里帰り旅行はご家族と協働して行い、定例行事となっている。		

事業者名: グループホームはびね別府 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練に地域の方が参加して下さったり、定期的な踊りのボランティア、餅つきのお手伝いなど、様々な方にご協力頂いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症専門内科医と歯科・皮膚科・泌尿器科の定期往診を受けている。希望の専門医への受診もご家族の依頼があれば職員が付き添い受診している。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。内科・歯科・皮膚科・泌尿器科の医師の定期的な訪問診療があり、医師との連携がとれている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤・非常勤の看護師と介護職員は日頃より情報交換を密に行い連携しており、急な状態変化にも問題なく対応出来ている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書等での情報提供に加え、面会時にも医療者と情報交換を行っている。家族の希望で医師の説明に同席し、早期に退院できるよう施設側の受け入れ態勢を考慮した対応ができています。医療機関との連携については別府市認知症研究会で発表しました。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りについてご家族と話し合い、可能な限り当施設で生活していただけるよう指針を示して対応している。看取りについては主治医と協力しながら、ご本人・ご家族の意向を受けプラン作成を行い、ご家族を支えながら一緒にケアを行っている。	入居時に事業所の指針を説明している。また、状態の変化に応じて、本人の希望に添った方針の話し合いを繰り返しながら、医師や家族、職員とチームで支援に取り組んでおり、看取りの経験もある。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急対応の研修を行っており、外部研修にも参加している。また、消防署主催の普通救命指導も受講しており、必要時に対応できるよう備えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、避難訓練や緊急連絡訓練等を行い、災害時に職員が冷静に対処出来るように訓練している。年1回は消防署立会や地域の方参加の訓練も行い協力体制を築いている。	月1回、地震や昼夜の火災などを想定し、避難訓練を利用者と共に行っている。職員は利用者を安全に避難させる方法を身につけている。訓練に地域の人も参加しており、協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会等で学ぶと共に、現場でもご利用者の人格を尊重し、尊厳ある暮らしが出来るよう介護する事を心掛けている。言葉の理解が難しい方へもケアを行う前には声かけを行い、不安なく生活できるよう援助している。	年1回、研修を行っている。日々のケアの中での気づきを、職員同士が互いに注意しながら、利用者の尊厳を守るよう努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	重度の方は言語による表出が難しいため、仕草や反応から思いを読み取りケアするように努めている。表出出来る方には都度お伺いしながらケアさせていただき、思いが実現できるように援助している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に合わせて自室で食事介助を行ったり、食事に時間を要しても出来る限り自由にご自分で召し上がって頂けるように援助している。また、お好きな食べ物や飲み物を準備して、召し上がっていただいたりしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみが乱れないよう気を付けて援助しており、理容師による散髪や顔剃りを受けたり、希望される方は外部の美容院にお連れしている。行事に出席する時はお化粧品をしたり、オシャレをして頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度認知症の方が多いが、出来るだけご自分の思う様に食べて頂き、必要な部分のみお手伝いさせて頂いている。食後の片付けは、お盆拭きや食器拭きを一緒に行って頂いている。	本人の力を活かしながら、職員と一緒に調理や配膳、片付けをしている。職員も一緒に食卓を囲み、楽しい時間を過ごせるよう支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1時間毎に様々な飲み物を提供し水分管理を行い、食事は摂取状況を元に栄養士に相談しながらバランス良く召し上がって頂けるよう工夫している。食事量・飲水量共に記録して健康管理を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず歯磨きを行って頂く。介助が必要な方は職員が介助する。また、口腔リハビリも行い口腔機能が衰えない様に努めている。就寝時は義歯を預かり、洗浄殺菌剤に浸して清潔に管理している。		

事業者名: グループホームはびね別府 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿便意の表出の癖を把握したり、失禁間隔を把握して失禁前に誘導し、可能な限りトイレで排泄できるよう心掛けている。夜間も個々の排泄間隔からトイレ誘導を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれのタイミングに合わせて声掛け誘導をしながら、排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜類の摂取や飲水量の管理に加え、乳酸菌飲料やヨーグルトやオリゴ糖などを摂取して、腸内環境を整え自然排便が見られる様に工夫をしている。頑固な便秘の方には適量の解下剤を使用している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決まっているが、体調に合わせて日程を変更している。不穩時の入浴拒否には無理をせず、時間を変えたり、誘導方法を変えたり工夫して強要しない介護を行っている。	本人の体調や希望に添って、週3回は入浴できるよう支援している。仲の良い利用者は一緒に入浴したり、ゆず湯にするなど、入浴を楽しむ工夫も行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを作るため、就寝時は寝間着に着換え、清潔な寝床・適切な照明で安眠できるようにしている。夜間不眠の場合は付き添ったり、スタッフルームで一緒に過ごし、眠気を催したら寝床に誘導している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の内容は個人ファイルで管理しており、効果や副作用については観察を行い、記録に残している。症状については主治医に報告し、指示を頂いている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の得意とする楽器演奏やレクを行って頂いたり、季節を感じる行事や散歩などを実施して楽しんで頂いている。出来る家事作業は一緒に行って頂き、他者を助ける介助も見守りながら行って頂いている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は随時散歩に出かけ、花見や海遊び、旅行に出かけている。ご家族のご協力の下、毎年、離島に里帰り旅行も行っている。	天気の良い日の散歩を日課としている。紅葉狩りなど、季節の花や自然を楽しむドライブや、本人の希望に添って、一泊旅行に出かけている。	

事業者名: グループホームはびね別府 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される場合はお財布を持って頂いているが2階フロアは希望者がいないため、持たれていない。店で買いたい物を選ぶ方には見守りで買い物をして頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかける支援を行い、年賀状を出す支援も行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	重度認知症の方が多いため、危険のないよう環境に配慮しながらも、季節感のある飾り付けを行い、明るい雰囲気になっている。気分が落ち着くクラシック音楽などを流し、穏やかな環境を提供できるような努めている。	別府の山々が眺められる大きな窓からは柔らかな日差しが入り、季節を感じるができる。ドライブなどの行事予定を利用者にわかりやすく掲示し、楽しく過ごせるよう工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士でソファで寛いだり、自由に歩いたり、それぞれが自由に安全に過ごせる環境にしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各室、ご本人やご家族の希望を伺い、使い慣れた家具や馴染みの物を置き、落ち着いて生活できる空間となっている。	本人や家族と相談しながら、ベッドの配置、タンスや鏡台、植物など、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	重度認知症や身体機能低下した方が多いため安全に配慮した環境を心掛けており、夜間はセンサーを設置し、直ぐに駆けつけ援助が出来るよう工夫している。また、過剰に介助せず、見守る事も大切にしている。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4470200900		
法人名	株式会社 ケア・リンク		
事業所名	はびね別府(グループホーム3階)		
所在地	大分県別府市天満町 2-17		
自己評価作成日	平成24年1月7日	評価結果市町村受理日	平成24年3月29日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成24年3月6日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用者様には出来る家事と一緒にさせて頂き、家庭の様な生活観のある日常を過ごして頂いている。狭い空間ではあるが生活が楽しめる様な工夫も行い、ご利用様の作品や写真も展示して思い出話が出来るとも整えている。認知機能や身体機能低下の予防の為に脳トレーニングや運動レクを行っており、嚥下機能の維持や肺炎防止のために毎食前に筋力アップ訓練や口腔体操も行っている。ご利用者様の希望や意思を伺いながら一泊旅行の行き先を決めたり、思いに寄り添う介護を心掛けている。ご家族様には面会時や電話で情報交換を行っており、常にご意見を頂ける態勢を心掛けており、外出行事の際はご家族様の参加も提案して一緒に花見や旅行に参加させて頂き、ご利用者様との思い出作りもして頂いている。認知症については定期的に学習会を行い、自己研鑽に努めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

【はびね別府 2階ユニットに記載】

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	1/9	

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	はびねの理念を念頭に置き、日々の介護を実践するよう努めている。年1回行われている会社の理念に基づいた研究発表にも皆で取り組み、優秀賞を頂いている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天満町の行事に参加し、会場として施設を開放したり、餅つきの道具を借りたり、回覧板で『はびね新聞』を回覧して貰っている。また、地域運営推進会議で施設の現状を報告し、協力して頂いている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の介護相談を受けたり、介護保険制度の利用方法を説明したりしている。また、中学校や看護学校や介護の実習生・製薬会社の実習生を受け入れ認知症介護について指導している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域運営推進会議にて運営状況や取り組みを報告し、助言を頂いてサービス向上に活かしている。また、地域の方の協力が必要な場合は自治会長・民生委員が協力してくださり、大変助かっている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設運営において困った事など、市役所に電話や直接出向いて相談をしている。また、別府市グループホーム連絡協議会より依頼して、毎年講演会の講師をお願いしている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0委員会で管理し全体会議で全職員に報告し、学習会も行い拘束しない介護を実践している。出入口に自動ロックが設置されているが危険防止のためとの評価を利用者・家族・地域の方に頂いている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心に、外部研修や施設内研修で学習し、気付かぬ内に不適切な行為をしていないよう、互いに意識し合っている。9月には「不適切な行為」について意識調査を実施し、全体会議で話し合った。		

事業者名: グループホームはびね別府 3階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について閲覧できる資料を設置しており、身元引受人様にも適宜説明している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は読み合わせを行いながら、都度質問等があれば伺い、十分理解して契約していただくように努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話で情報交換を密に行っている。また、年2回の家族会や年1回のアンケート調査でご意見を頂き、速やかに対応を行っており、アンケート結果については集計・分析を行って、ご家族に開示している。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は申し送りに参加し、直接スタッフと意見交換を行いタイムリーに対応している。ケースカンファレンスや各種会議でも意見交換を行い、職員全員の意見が必要な場合はアンケートで意見収集を行っている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を実際に確認し、リーダー陣と話し合い情報収集を行い、定期的に人事評価も行っている。職員が向上心を持って働けるよう意見交換を行う事が大切と考えている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を毎月行い、外部研修にも種々参加して、働きながら自己研鑽できるよう努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市グループホーム連絡協議会で研修会や交流会で情報交換を行っている。また、リーダー研修では他施設と交換研修を行い、意見を交換し合った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず訪問調査に伺い、必要としている介護や不安の内容を事前に把握しておき、入居後はその情報を土台にして更に観察して、利用者様が安心して過ごせるよう職員が連携でして介護するよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の訪問調査時に十分意見交換を行う所から始まり、面会時の状況報告や電話で情報交換、月1回の定期報告で写真入りの「コメント」で生活の様子を報告しており、ご家族が「安心できる」と好評である。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様を中心にご家族・主治医・ケアマネ・MSW等と連携を持って取り組んでいる。必要な場合は他施設を紹介したり、可能な限り支援するよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援に沿ったケアを心掛けており、家事などで出来る事は一緒に行い、「ありがとう」の感謝の言葉を言い合える関係である。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と職員は互いに情報を送受信しながら、入居者様が健康に安心して、楽しく生活できるよう協働している。家族会等の参加者も多く、大変協力的である。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚やご友人の面会のご家族からの制限が無い限り自由に面会して頂いている。届き物があれば、お礼の電話を掛けて話して頂き、関係が保てるように努めている。元生徒さんが訪ねて来られたりする。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースにて、スタッフが間に入り、コミュニケーションを図ったり、レクを行ったりしている。		

事業者名: グループホームはびね別府 3階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も次の施設に面会に伺い、関係を続けている。残された家族が高齢の場合は時折連絡を入れ、話しを伺ったりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表出できる方には希望を伺ったり相談して、実現に向けて努力している。認知が進み、意思の疎通が困難な場合もあるがご本人の表情や態度から意思を読み取るよう努力している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問調査やご本人やご家族からの情報、または面会者との会話の中から情報を得て、スタッフ間で共有し、レクや生活に反映している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル・食事量・排泄状況など記録に残し、健康面や精神面においても些細な変化も見逃さないように注意深く観察している。また、状態を詳しく記録に残している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族の要望を伺い、カンファレンスで最善の介護を提供できるようケアプランを作成している。また、定期的にモニタリングを行い、ケアプランに反映させている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録に残すと共に、口頭および申し送り簿にて確実に申し送り、素早く対応出来るようにしている。また、その内容はカンファレンスでも活かされている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスの利用者様と交流できる機会を設けたり、故郷への里帰り旅行を行ったりしている。里帰り旅行はご家族と協働して行い、定例行事となっている。		

事業者名: グループホームはびね別府 3階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練に地域の方が参加して下さったり、定期的な踊りのボランティアや餅つきのお手伝いなど、様々な方にご協力頂いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症専門の内科医と歯科・皮膚科・泌尿器科の定期往診を受けている。希望の専門医への受診もご家族の依頼があれば職員が付き添い受診している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤・非常勤の看護師と介護職員は日頃より情報交換を密に行い連携しており、急な状態変化にも問題なく対応出来ている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書等での情報提供に加え、面会時にも医療者と情報交換を行っている。家族の希望で医師の説明に同席し、早期に退院できるよう施設側の受け入れ態勢を考慮した対応ができています。医療機関との連携については別府市認知症研究会で発表しました。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りについてご家族と話し合い、可能な限り当施設で生活していただけるよう指針を示して対応している。看取りについては主治医と協力しながら、ご本人・ご家族の意向を受けプラン作成を行い、ご家族を支えながら一緒にケアを行っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急対応の研修を行っており、外部研修にも参加している。また、消防署主催の普通救命指導も受講しており、必要時に対応できるよう備えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、避難訓練や緊急連絡訓練等を行い、災害時に職員が冷静に対処出来るように訓練している。年1回は消防署立会や地域の方参加の訓練も行い協力体制を築いている。		

事業者名: グループホームはびね別府 3階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会等で学ぶと共に、現場でもご利用者の人格を尊重し、尊厳ある暮らしが出来るよう介護する事を心掛けている。言葉の理解が難しい方へも笑顔で接し、不安なく生活できるように援助している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で利用者様の希望や意見を伺い、職員と利用者様とで話し合い、楽しい生活が出来るよう工夫している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康面を考慮しながら、好きな食べ物や飲み物を伺い提供したり、入浴の順番の希望を伺ったり、本人の意向を伺いながらケアする事を心掛けている。お部屋で過ごしたい場合は居室にお茶をお持ちしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選んで着替えをされるが援助が必要な時は介助している。理容師による散髪や顔剃りを受けたり、希望される外部の美容院にお連れしている。行事出席の時はお化粧をしたり、オシャレをして頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや片付け等、出来る事は職員と一緒にに行い、食事職員と一緒に会話しながら楽しく食べている。看取り介護中で食欲のない方に対しては好物の物を作って差し上げ、喜んで頂いている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1時間毎に様々な飲み物を提供し水分管理を行い、食事制限がある方も居られるので栄養士と連携しながらバランス良く召し上がって頂けるよう工夫している。食事量・飲水量共に記録して健康管理を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず歯磨きを行って頂く。介助が必要な方は職員が介助する。また、口腔リハビリは毎食前に行い口腔機能が衰えない様に努めている。就寝時は義歯を預かり、洗浄殺菌剤に浸して清潔に管理している。		

事業者名: グループホームはびね別府 3階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁を少なくするため排尿間隔を把握して、間隔が開いている時はさり気なく声掛けを行い、トイレ誘導している。介護用品も本人様に適した種類を選び、夜間も個々の排泄間隔からトイレ誘導を行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜類の摂取や飲水量の管理に加え、乳酸菌飲料やヨーグルトやオリゴ糖などを摂取して、腸内環境を整え自然排便が見られる様に工夫をしている。頑固な便秘の方には適量の解下剤を使用している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決まっているが、体調に合わせて日程を変更する事もある。入浴時間は利用者様の希望を叶える等調整しており、入浴時の見守りはさり気なく行い、介助が必要な部分は行っている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを作るため、就寝時は寝間着に着換え、清潔な寝床・適切な照明で安眠できるようにしている。夜間不眠の場合は付き添ったり、スタッフルームで一緒に過ごし、眠気を催したら寝床に誘導している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の内容は個人ファイルで管理しており、効果や副作用については観察を行い、記録に残している。症状については主治医に報告し、指示を頂いている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	壁紙などの作品を皆で協力して作成したり、季節を感じる行事や散歩などを実施して楽しんで頂いている。外出レクは好評の為、多く取り入れており、ご家族にも声掛けて喜んで頂いている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は随時散歩やドライブに出かけている。ご家族も参加できる花見や海遊び、外食レクや旅行レクを行っており、恒例行事となっている。		

事業者名: グループホームはびね別府 3階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方はお財布を持って頂いている。買い物レクでは店で買いたい物を選ぶ方には見守りで買い物をして頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかける支援を行い、年賀状や手紙を書く支援も行っている。今年の年賀状は職員と一緒に考え、工夫して作成したため大好評であった。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭いスペースながら談話スペースを作ったり、季節感のある飾り付けや利用者様の作品を飾るなどして生き生きと明るい雰囲気になっている。席配置も工夫して、トラブルを起こさず穏やかに過ごせるよう配慮している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話スペースで新聞や雑誌を読んだり、家事作業をしたり、気の合った者同士で楽しそうに過ごしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各室、ご本人やご家族の希望を伺い、使い慣れた家具や馴染みの物を置き、落ち着いて生活できる空間となっている。また、居室でテレビをご覧になったり、ラジオを聴いて過ごせる環境となっている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮した環境を心掛けており、日中・夜間センサーを設置し、直ぐに駆けつけ援助が出来るよう工夫している。過剰な介助をせず、持っている機能が低下しないように心掛けている。		